

(様式)

普及項目	養殖
漁業種類等	二枚貝養殖
対象魚類	マガキ
対象海域	熊本有明海

干潟漁場でのバスケットカゴを活用したマガキ養殖試験(荒尾地区)

県北広域本部水産課・永田 大生

【背景・目的・目標(指標)】

今年度、荒尾漁協、荒尾市が連携して、広大な干潟漁場を活用し、特徴ある高品質な殻付きマガキを効率的に生産可能なバスケットカゴを活用した養殖試験を開始した。

当水産課は、荒尾地区に適した養殖手法の改良に係る技術開発を支援し、安定的な養殖手法の確立を目標として、現場指導を実施した。

【普及の内容・特徴】

(1) 種ガキの安定確保に向けた天然採苗試験

令和3年(2021年)5月、図1に示す種場漁場に種ガキを採取するための採苗器を10セット設置した。設置に当たっては、採苗器を異なる目合の網袋(アサリ出荷用ネット、種糶袋)で覆うとともに、向きを変えて設置し、採苗状況の比較検討を行った。

また、令和3年(2021年)7月から9月までの間、月2回、計6回、調査を実施した。採苗器を種糶袋で覆った採苗器への種ガキの付着が多かった。また、設置向きの違いによる影響は把握できなかった。9月までに採苗器から種ガキの剥離を計5回行い、累計34,518個の種ガキが得られた。

(2) 生育状況調査

令和3年(2021年)10月から令和4年(2022年)3月までの間、月1~2回、計8回、マガキの生息状況調査を実施した。養殖試験には、①天然採苗、②株式会社西海区養殖技研産の人工種苗、③水産研究センター産の人工種苗の3種類のマガキを用いた(①、②は9月、③は10月から養殖試験を開始)。3月時点のマガキの平均殻高は、①48mm、②59mm、③54mmであった。また、生残率について、①、②は10%以下であったが、③は90%以上と高く、導入時期による差が確認された。

【成果・活用】

荒尾地区における天然採苗について、採苗器を種糶袋で覆うことで、種ガキを効率的に採苗できること、養殖の開始時期により生残率が異なる可能性があることが明らかになった。バスケットカゴを活用したマガキ養殖は、荒尾地区に適した養殖手法であると推測された。

【達成度自己評価】

3 おおむね達成できたが、取組に改善を要する等の課題も見られた(51~75%)

(様式)

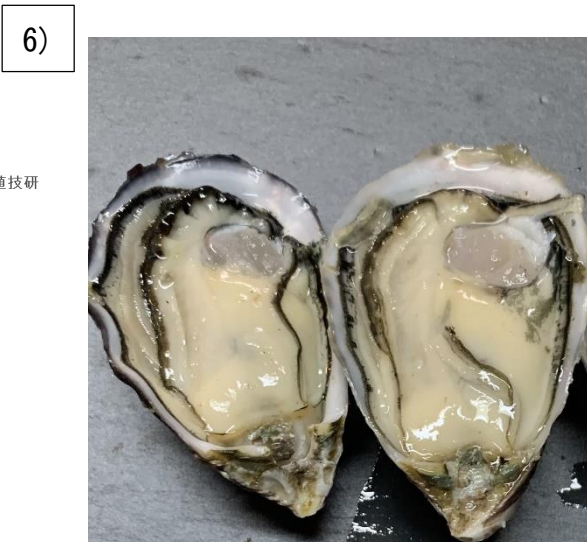
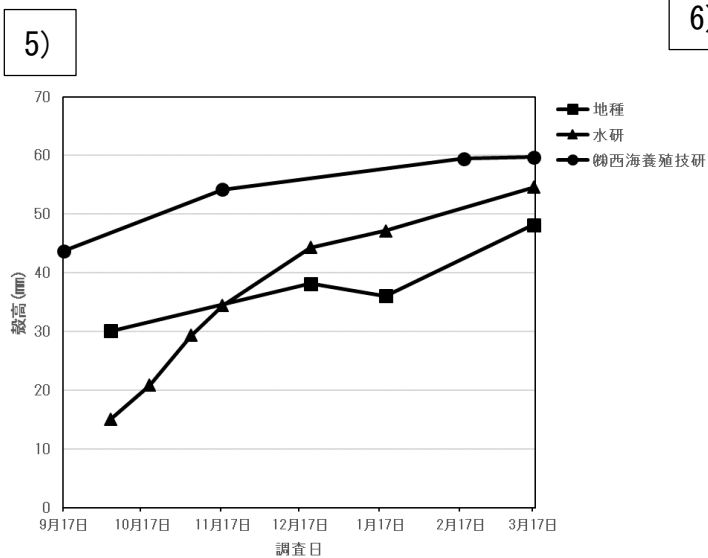
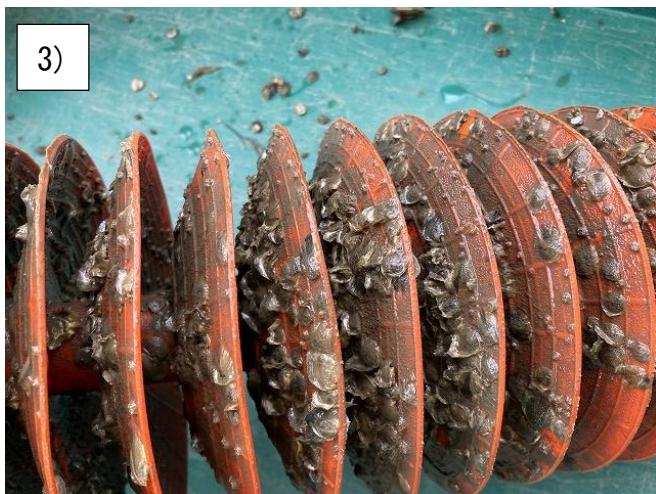
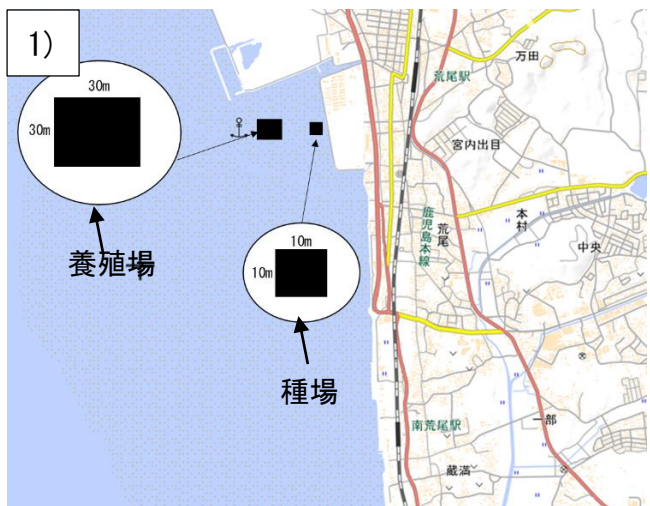


図1 試験漁場図

図2 採苗器の設置状況

図3 採苗器へのマガキ付着状況

図4 ノリ養殖資材を活用した養殖施設

図5 天種種苗と人工種苗の殻高の推移 (n=13~30)

図6 R4. 3月のマガキの状況 (※荒尾市提供)